



號 二 十 四 第  
 月 三 年 六 十 和 昭  
 行 發 日 十  
 行 發 日 五 一 月 每  
 錢 五 金 部 一 價 定 誌 本  
 錢 六 金 (共 稅) 年 一  
 一 才 田 杉 編 發 行 部  
 一 一 七 西 座 郵 區 區 京 市 京 東  
 社 信 通 盟 同 所 行 發

# 報道新體制の方向

政経部長 萩野伊八

## 國內的規模に於ける轉換

祖國日本が今、世界動亂の眞只中において東亞細亞の政治經濟文化の共榮圈確立といふ歴史的使命達成に全民族の力を綜合して邁進しつつある秋、吾々新聞人に賦課された役割も亦異常に大きく且重むるものがある。

政治上には大政翼賛運動が既に全國に展開され、各方面の或は辛辣な或は皮肉な批評を浴びつつも日に月に其逞しい歩みを進めつつあり、經濟組織上においてはこれも一弛一弛はあつても、國防國家完成への急速なる到達を必要とする情勢は、あらゆる障害と反動的潮流を乗り越へて一步一步、新體制への躍進を見せつつあるのだ。

而して吾々の職を奉ずる新聞通信の領域は如何なる動きを見せつつあるであらうか？ 國民總力戦を戦ひ抜かねばならぬ此現段階において果して總べての新聞人が眞實の歴史的役割を理解してゐるであらうか？

成る程、例へば去る七十六議會をして眞の翼賛議會たらしめ、吾々新聞界は從來未だ曾つて無かつた程の痛烈且つ厳格な指導精神を以つて議會報道記事を取り扱つ

た。あらゆる野卑な野次や不眞面目な論議は本記に雜報に而して雜報子によつて忌憚なく筆誅が加へられた。又外交論議の報道取り扱ひにおいても或は勇敢に相手國の蒙を啓く爲の努力をなし、或は事情の必要により隱忍自重よく沈黙を守るなど、これ又從來の自由主義的商業主義的報道方針を以つて指導精神としたわがジャナナリズムとしては眞に劃期的轉換といひ得るであらう。

かかる日本新聞界の態度に對して心なき批評家や新聞内報子等は所謂「時局便乗」なる無責任な批評語を以つて新聞界への漫罵を送り快哉を叫んでゐる様である。殊に時局の緊迫性を最もよく認識把握し、今期議會記事報道を始め内外の政治經濟狀況報道に際して最も良心的指導精神を以つて一貫し來れるわが同盟通信の報道態勢について特に上述の如き批評を耳にするのである。

否、々、同盟に對するかかる批評や漫罵は單に市井の無責任なる批評家側から放たれるのみならず最もよく同盟の機構と精神を理解して在るべき當の地方新聞の責任者からさへ時々吾人の机上へ齎されるのである。

吾人はこれに對して唯彼らが認識不足とか或は時の流れを正確に把んでゐないとかの抽象的遁辭を以つて答へんとするものではない報道報國の同じ職域奉公の役割を負擔する吾々共同の責任だからである。

吾々は今、我國新聞界の現段階における歴史的役割を如何に果しつゝあるかを單に議會報道記事取り扱ひ振りに例をとり其一端を看たが、かかる末梢的考へ方で、此怒濤さかまかんとする太平洋戦に臨み得るものではない。

わが新聞通信の報道に際しては記事の記述に修辭に整理に大組にして全面的編輯上により深くより廣く、且より立體的觀點から構想さるべきである。

政治面においては革新的イデオロギーの香りに強烈に企業院關係記事や大政翼賛會記事が取り扱はれてゐるかと思へば、經濟面においては官僚統制の行き過ぎ攻撃とか業界の自治統制の禮讚などの記事が依然として横行濶歩してゐる。これが果して此重大時局に眞に新聞人の歴史的役割を把握せるもの新聞製作態度として許さるべきであらうか？

吾人は勿論官僚の行き過ぎ統制攻撃記事それ自體が悪いといふのでなく又民間自治統制禮讚の記事自體が悪いといふのではさらさらないのである。かかる記事が筆者たる一記者と經濟面の一編輯者とが政治面の一記者、一編輯者と夫々バラバラの動きをなし其間に有機的、立體的、企業連絡綜合の

機能的、立體的、企業連絡綜合の缺除してゐる事を嘆きたいのである。すべての記事は全國的規模において綜合され構想されねばならぬ。政治的軍事的經濟的而して文化的的立體的構想において製作されねばならぬ。

否、々、吾人が此處に最も聲を大にして叫びたいのは東亞共榮圈の確立責任者日本「東亞の盟主日本」而して「世界の日本」である吾々の新聞報道製作態度は單に全國的規模におけるものと更に一段飛躍して國際的規模におけるものとなしなればならぬ。これが來るべき太平洋戦に臨むわが祖國日本を守る新聞人職域奉公の最大目標であらねばならぬ。

吾々新聞人の報道製作の臨戰的態度としてそれが全國的規模から更に國際的規模への發展を必要とする點は既にこれを指摘した。これは一般新聞人の心構へたるべきと同時に、殊に祖國日本を代表して世界の宣傳謀略戰の眞只中へ突入してゐるわが同盟通信の、すべの同僚が他社の新聞人よりも更に一層これを明確に而して強烈に持つべき意識であらう。

## 國際的規模への發展

吾々一行の記事を取材しこれを記述し、これを整理し、これを同報し、これを放送するに際して常時吾々の心眼に而して頭腦にそめて胸奥に響くべきものは何であらねばならぬか？

それは、倫敦のシチーの一角に王座するロンドン・タイムスであり、フット・ストリートに日夜輪轉機を動かすデーリー・テレグラフであり其向側に在るロイテルであらねばならぬ。

更に又紐育のタイムス・スクエアーに君臨する紐育タイムスであり、或は又ヘラルド・トリビュン、A・P、U・Pであらねばならぬ。

獨のD・N・B通信社、ナチ黨機關紙フェルキツツヤ・ベオバハター、更に轉じては蘇のタツス通信、ブラウダ、重慶の中央通訊社等々が唯今何を如何に報じこれを如何に轉電如何に放送してゐるかを慎重に細心に而して迅速俊敏に取り上げ検討せねばならぬ。

而して即座にこれが對策を講ぜねばならぬ、或は彼らに先じて先手を打たねばならぬ。

吾人は我國の或種の批評家乃至地方新聞責任者迄が同盟の報道態勢に關する無責任なる批評について觸る處あつた。此處に更めて吾人の競争相手の外國新聞通信社の報道態度について簡単に検討してみよう。

我國新聞人はそして一般讀者も口を開けばわが國新聞通信の報道が事物の眞實を傳へぬ事を得意氣に攻撃する。或は官權の壓迫とか統制とかを強調し或は新聞通信人の時局便乗態度なるものをさも物知りげに曝露し非難するのである。然し乍ら試みにそらう諸君は倫敦の新聞街に在つて英吉利の新聞をそして通信を擴げて見給へ、現下戦時の事は問はぬとして平時にあつてさへ其處に英國の軍需工業が如何なる趨勢を辿り如何なる重點主義の下に經營され發展せしめられつつあるかを吾人が故國日本へ報道せんといくらあせつても遂に徒勞に歸するのである。

これが所謂日本の新聞人や知識階層が口を開けば民主主義、自由主義の「美しき」イデオロギーの下に「何でも書き報道する」英國の新聞の編輯態度であるのだ。英國は開戦後は國家豫算のかかる内容の一ページすらも公表してはゐない。

然るにわが日本の新聞は如何？

聖戰五ヶ年に垂んとする今日尙依然としてあらゆる化學工業會社に對する政府助成金の金額は商工省所管豫算として發表され、銃後施設の經費も發表され政府内部の動きは白日の下に曝かれ、軍部指導者群の更迭毎に「異動評」として其履歴は詳細に紹介されるのだ作戦參謀の年齢と學歷と職歴とは其參謀の「戰略型」を決定する事は明白である。かくて隣國蘇聯の赤軍參謀本部は對日戰略の定期的模倣替へに多忙を極め米海軍の作戦部も亦對日作戦の想定編成に繁忙を告げるのである。世界何れの國にかくの如く戦時下において殆んど平時のそれと大した變りなき新聞編輯をやつてゐる所があるであらうか？

ドイツ、ソ聯の例は此處に喋々を要せないのであらう。余が二ヶ年六ヶ月に亘る短からざる莫斯科在動中に、讀み難いギリシヤ文字の露字新聞を毎日毎日數十邊引繰り返して判讀してみても、容易に故國へ傳ふべき報道の端緒すら把握し得ずして唯徒らに焦燥を重ねるのみであつた。然るに今祖國に在つて自ら新聞通信編輯の責任の位置に在つて、其餘りにも數多くの大膽なる報道をせねばならぬ事に驚き入つてゐる状態なのだ。

吾人は既に國內的規模において日本の新聞界が一應臨戰體制を整へた事實はこれを肯定したが國際的宣傳謀略戰の舞臺に起つものとして其態勢が未だ舊態依然たるの事實を認め慨嘆これを久しくするものである。吾々新聞通信の同僚は此處に三思せざるを要しないであらうか？

國家活動との聯繫

余は既にわが國新聞並に「同盟」の國內的國際的規模において如何

(四頁最下段に續く)

# 歐洲より歸りて

前歐洲特派員

## 大屋久壽雄

### 本社とジャーナリズム

支那と佛印に二年、歐洲に一年半、三年半ぶりで本社に歸つて來た。機構が變つてゐる。人が變つてゐる。名を聞いただけでは何をする部だか判らない部が出來てゐる。「あの煩い奴は一體ありあへぬだ」といふやうな顔をしてジロジロ横目で見る新人もある。

だが私は嬉しい。この活氣はどうだ！ここにジャーナリズムを再び發見したといふ感激がやや浦島じみた私の混亂の中で熱く渦をまく。歐洲に行く途中ニューヨークとワシントンとでA.P.、U.P.の事務所を見學してその至れり盡せりの機械的装置に羨望を感じ、ワシントンのハル國務長官會見とルーズヴェルト大統領會見とジャーナリズムの極致を見て以來一年半の歐洲生活に於ては、私は遂にジャーナリズムらしいものの姿を見なかつた。

ハヴァスにしても、ステファニD.N.Bにしてもその外電網こそ相當に張つてあるが本社の機構は至つて簡單で、内政、社會、運動その他各部門毎に多數の取材記者を擁して眞の意味のジャーナリストツク活動をしてゐる通信社が皆無だ。私は行つたことはないがロイターも略々同様だとの話。それに引きかへわが同盟本社はまるで蜂の巣を叩いたやうな騒ぎである。汚い。相變らず狭い。ワシナと人がたかつかつてゐる。出たり入つたり煩い程である。「生きて動いてゐる」といふ感じ

がびつたり來る。これが前記大通

信社以外のたとへばバルカン各國の群小通信社に至つてはてんでお話にならない。外國の大通信社が電波で送つてよこす通信を小數の編輯者がゐて印刷配布するだけのことで、國內ニュースの探訪取材なんてことは全くないといつてもいい。たまに國內ニュースが出る時はお役所製の官製ニュースである。彼らは國內のことよりは外國のこの方よりよく知つてゐるといふ變態現象を呈するのである

### 言論の新體制

世界情勢は恐ろしいスピードで展開する。日本で今頃新體制をギヤギヤいつてゐるのはむしろ遅きに過ぎる位のものであらう。だがいはいよりはよいし、今度には相當眞剣なやうだ。新體制の必要は言論界にも痛切に感じられる新聞雑誌の編輯ぶりや、記事の内容にも従前は餘程異つたもの、相當眞剣な態度が見られる。そして一部には言論統制が眞面目に考へられてゐるやうだ。

大賛成である。言論はここでその指導性と推進力を取り戻し、最も効果的な方法で國家の事業に協力しなければならぬ。従來のやうに、言論といふ公的武器を「一派或は一團の人々の個々の利害に従屬させたまま放置しておくが如き態度はこの際すつぱりと清算されねばならぬ。」と考へると同時に私は一握の能なし猿共が無定見に眞似たがるやゝな「翻譯直輸入の言論統制」には絶対反対である。

獨逸や伊太利ヤソ聯で既に實施し

てゐる彼ら流の言論統制方法は、獨逸、伊太利、ソ聯のそれぞれの國情と必要に應じて生れ出たもので、それをそつくりそのまま直輸入したからとて、今日の日本が必要としてゐる對策としてそのまま使用出來るわけのものではない。

### 物資の缺乏

獨逸にゐた時に日本から來た人々が「これはひどい、同じ足りないと言つても日本はまだまだ随分と豊富ですよ」といつてゐるのを聞いたことがあるが、私は彼らの樂觀を悲しむ。獨逸が足りないのは計画的に足りないのである。明年後年、三年後のこと迄ちやんと計畫して、人為的に、今日の日常生活を切りつめた、明日のための不足である。

日本は有難い國である。東に太平洋あり、西に支那をへだててソ聯はなほ遠くにある。今急に攻められる恐れはない。しかし、それでいいのだろうか？ 目に見える危険は誰でも感じる。目に見えぬ危険が一番恐ろしいのだし、それを看破して之に手段を講じるのが慧眼な政治家の仕事ではないのかしら。

間斷なく方々放浪してゐたので新聞もとびとびにしか讀まなかつたが、その新聞で見ただけでも日本の日常生活の不便が相當深刻なものだといふことは大體想像してゐた。しかし歸つて見てその深刻さの意外に深刻なのに一寸心を塞くした。

### バルカンの昨日今日

バルカンは一年餘り手にかけてたところだけに歸つて來てからもどらう氣になる。一番面白い時になつて呼び戻されたのが残念でもある。毎日新聞を見ながら「ああ、ほんとに動き出したなあ」とと吐息が出る。

バルカンは動き出した。獨逸と英國とが東地中海を挟んで眞剣に對峙しはじめた。伊太利と獨逸との共同作戦もどうか緒についたやうだ。ギリシアは遠からず、平和的にか、實力的にかとに獨逸の膝下に屬することにならう。英國は懸命にトルコのお尻をヒツパタイてゐるが、トルコは動くまい一片の條約や僅か六千五百萬磅のシタ金で國の安危にかかわるやうな危い橋をわたれるものぢやないかと私のトルコの友人達は皆いつてゐた。四月五月になつたら東地中海から北アフリカ、近東方面の情勢はほんとに面白くなつて來る

ぞ。英本土上陸作戦に次ぐ重大意義を持つ大會戰がこの舞臺の上で始められるに違ひない。この方面の作戦展開の如何が今度の大戰の將來に與へる影響は決定的なものといつてもいいと私は考へてゐる

### 南方コース

歸朝命令をうけてから私はとるべきコースについていろいろ思ひ感つた。シベリア經由はなかなか査証が下りさうもないし、リスボン米國經由も非常に難しい。バグダッド迄出れば船が飛行機がある筈だが、それもイラク政府が同方面の交通状態を他國に知らすのを嫌つて通信を禁止してゐるのでハツキリ解らない。思ひ迷つた揚句結局とに角一應バグダッド迄出て見ることとした。

査証や何かに手間どつて私がイスタンブールを出発したのは二月八日の朝だつた。沙漠と砂岩の三千キロを七十五時間かかつてタウルス急行で突破、紀元節はバグダッドで。

イラクは完全に英國の走狗だ。英國といふ奴はどこ迄根を張つてゐるか、憎い限りである。來て見ればインペリアル・エアウェイズのシンガポール線が月、水の二回K.L.M.のバタヴィア線が木曜日、何れもカイロを起點に今日でも歐亞連絡定期航空を續けてゐる私は運よく十三日發のK.L.M.にたつた一つ空いてゐる座席をとることが出來た。赤道近い熱帯の空を、かくてまる八日間の翹翹が始まつたのである。行けども果なき廣漠の荒蕪地をD.C.三型三十一人乗の大型旅客機は一日十時間平

均飛び續けるのだ。零下十五度のベルリンを出發、一氣に四十度以上の暑熱の中に舞ひ上つたのだから相當こたへる。

### 印度はひどいところだ

荷物の検査はヒステリー的で、身體検査迄する。原稿、手記、新聞切抜き地圖、繪圖書、手紙等一切を檢閲のためと稱して押収してつた。トランクの底を破つて見る。紙をすかして見る。印度がするのぢやない、英國官憲がさせてゐること勿論。金持心安からずで、印度に動かれるのが恐いばかりの逆上ぶりのだ。

パンコックでは須藤宣之助君が迎へに來てくれた。暑くて濕氣の多いひどいところだ。それでも元氣でやつてゐた。自動車の運轉もなかなか上手。但し四十キロ以上出されると少し困るが、ここから日泰連絡機に乗りついで、ハノイで一泊。一年半前、約十ヶ月ゐた懐しのハノイ。變れば變るものだがあのころのハノイとはまるで別なハノイになつて了つてゐる。小さくなつてゐた日本人が今では肩で風切るハノイなんだからねえ。波多尙君が迎へに來てくれた。井上達君や中村眞一郎氏が堂々たる支局で元氣にあはれてゐた。

海口で天候悪く一泊といふ話。支局に行つて、中井君の留守も構はず盡めしをバクツいてゐたら、出發する故すぐ來いとの電話で飛び出し、臺北へ。益崎支局長も酒こそこのまぬが今日この頃は全く元氣。料理屋に案内されて美しい大和撫子のお酌で「ああ、日本娘はいいなあ」と長歎息しつつかし哀れむべし、「一人様、お一本限り」。かくて……毎朝三時に叩き起されつ八日間の空の旅を終へて二月二十日の夕方、私は羽田空港の土を踏んだのである。

翼賛議會あれこれ記

政 經 部

氣送管がとぶ。本會議原稿、それを鷲掴みにして、我らの「小さい同志」が、走る、走る。白聖の議事室から道路一つ隔てた兩院記者會館内の同盟控室へ、その赤い腕章のついた小さい右手が、とび込んで来る。

「衆議院本會議！」  
朱筆をもつた手が、動く。本政経デスクへの直通専用電話に開いた口が、送話する。またとび込んで来る赤い腕章の運ぶ衆議院本會議原稿！この繰り返しが散會までつづく。

控室の窓ガラスの棧に、青インキ筆書きのその日の「割當表」がピンで止めてある。

- A 衆議院本會議
- B 貴院本會議
- C 豫算總會
- D 決算委員會
- E 赤字
- F 總動員法
- G 國防保安
- H 治維
- I 農地
- J 貴院學校
- K 昨日の議會
- X 今日の兩院
- Y 『夕刊トップ』
- Z

朝が来る。我らが「小さい同志」二十六人は、けふの戦ひに備へて鉛筆を研ぎ、カーボン入り原稿用紙を揃へる。  
午前十時前二十分、政経の精銳二十四名に、社會・地方・大陸・寫眞各部の戦士が、勢揃ひを終る。ポールの差し出す藥湯の如き

ふのだから相當なもの。鈴のかはりに生玉子をのんで、サテ「本會議のつづき……松岡外相……言葉になつて……に、美辭をきかす」といつた按配。

『控室出入口のマト』

兩院記者會館内の各社控室の間に敷いてあるマト様の敷物が、同盟控室出入口のところだけが破れてある。各社のそれは敷いた當分のそれと餘り違はない。同盟の出入口の部分だけが破れてあるのだ。これは我らが小さい同志達が荒ッぽいでもなければ亂暴でもないのだ。この敷物の破れこそ、身を粉にして働く小さい同志達の激しい活動を如實に物語るものである。同盟控室前の敷物の破れを喜ぶ。

臨戰翼賛議會・第七十六議會は去る三月一日を以つて自然休會に入つた。控室の活動は僅かに三十七日間で終つた。全く異例のことゝ屬する。でもマア有態にいへば太平洋の潮騒を身内に大きく感じ

ロンドン便り

ロンドン支局長

皆藤幸藏

伏見丸が出發してからロンドン在留の日本人は、英國人を妻としてゐる土着の人々を除いては大使館員を入れて五十名内外に激減したのでメツキリ淋しくなりました。それに三國同盟成立以來、我々日本人は准敵國人扱ひで總べての點で色々やりに難くなつて來ました。然し流石大國民だけに個人的には今迄と少しも變り無く、日常生活で不愉快な思ひをするやうなことはありません。

新しいことを試み、新しいものを書かうとするには、素より新しい素材が望ましい。而我らのすなるところは、なほ舊態依然たる第七十六議會であり、飛躍し得ざる自由主義的代議士達の動く翼賛議會である。ここから得られる新素材は文字通り寥々たるものだ。勢ひ我らは政府が堅持し實行せんとする政策の趣旨徹底にその最重點をおき議會の質疑を輕視せざるを得ないこととなつた。

ながら、而も現状維持的・非建設的・自由主義的形式論議を未だきかねばならぬとは、情ないことだとするの國民の偽らざる心であらう。よかつたと思ふ。早くすんで……臨戰議會があんな翼賛振りなら、もうとぶ氣送管、懸命に走る小さい同志、直通電話で動く口内院電話に聳立てる耳さては鉛筆カーボン入り六枚の原稿用紙等々が勿體ない氣がせぬでもない。これから以後一ヶ月以上の議會論議は、御免蒙りたいものだ。

例へば記事の構造をどうするかその様式はどうだ？ 用ゆべき章句、語句はどれがよい。先づその素材の取捨は如何にするか。その時々々の勘と考察と推理だけでは覺束ないのではないか。

機はの音を聞くのは珍らしくないのですが「今晩は少しうるさいやうだね」と長谷川君と話してゐるとスタクリーミング・ボムが數彈落下して來ました。爆彈の音には大分馴れて來たので大して驚きもせず、その中長谷川君は風呂へ入り二階へ行きましたが、間もなく又一彈落ちて來ました。然し今度のは爆彈が風を切つて來るシューといふ無氣味な摩擦音がすぐ頭の上を迫つて來るではありませんか思はず椅子から立ち上つた瞬間家が崩れるやうに激動し、窓硝子はとび家の中の物ががら／＼と床へ抛り出され、私は危く脚をとられさうになりました此の時は駄目かと思ひました。

長谷川君はまだ風呂に入らないうちで階段を飛んで降りて來ました。すぐ近所に違ひないと二人で表へ飛び出して見ると、眞暗闇を通してほのかに白い土煙が立つてゐます。近寄つて見ると一軒おいて隣の家が二戸ベチャコにやられ微かに人の呻きが聞えます。その時はまだ誰も表の出でゐないので、我々は眞背になつて震へてゐる女中を勵まして警察へ電話をかけさせ、間もなく救護隊がかけつけましたが、暗闇で灯は使へず手の下しやうがありません。而も獨機はなほも頭の上を去らず又數彈を落しました。

小さい一軒建の家ですから直撃を喰つたらお終ひです。こゝにゐるのは危いと思つたので、車庫から自動車を引き張り出し、私が運轉して長谷川君と女中と三人で眞暗なブラツク・アウトの夜道をロンドンへ向ひました。途中高射砲や爆彈の音に脅かされながら、二十哩の所を二時間もかゝつて、夜十一時頃やつとロンドンへ辿り着きホテルへ入つてはじめてはつと蘇生の思ひをしました。

